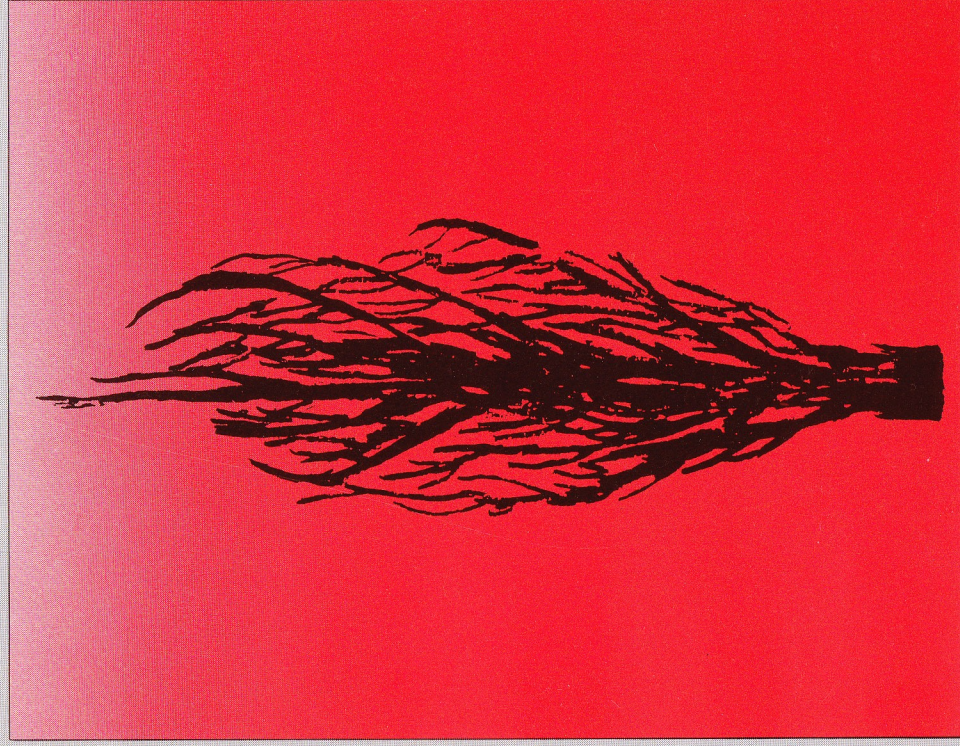


# 小田原男声合唱団 第19回定期演奏会

福永陽一郎先生 追悼演奏会



日時 1990年7月14日(土) 6時30分開演  
場所 小田原市民会館大ホール

# プログラム

♪ テーマ・ソング

森の歌声

## 1. ドイツ民謡集

指揮：松本和夫

- I. 羊飼いの日曜日  
Conradin Kreutzer作曲
- II. かりうどの別れ  
Felix Mendelssohn作曲
- III. わが恋人よ  
Friedrich Silcher作曲
- IV. きみがおもかげむねに  
民謡
- V. まことの愛  
民謡
- VI. ローレライ  
Friedrich Silcher作曲

## 2. 男声合唱とピアノのための「ことばあそびうたII」

指揮：渡辺 決己  
伴奏：久 邇 之 宣

- I. かつば  
谷川 俊太郎 詩  
新実 徳英 作曲
- II. うとてとこ
- III. たそがれ
- IV. さる



# 目標100万円!

### 期間別毎月お積立金額

期 間	掛 金	初回お積立金額	2回目以降お積立金額
5年 (60回)		8,160円	15,400円
3年 (36回)		20,240円	26,500円
2年 (24回)		32,600円	40,500円

お役に立つ  
だんけん



川田原第一信用組合

## 3. 黒人霊歌集

指揮：渡辺 決己

- I. ドライ・ボーン
- II. ゆれる幌馬車
- III. リバプリアック賛歌
- IV. 深い河

アンダーソン編曲

## 4. 枯木と太陽の歌

指揮：松本 和夫  
伴奏：久邇 之宣

- I. 枯木は独りで唱う
- II. 花と太陽の会話
- III. 冬の夜の木枯しの合唱
- IV. 枯木は太陽に祈る

中田 浩一郎 作詞  
石井 敏 作曲

## 福永陽一郎先生追悼曲

指揮：柏木 秀茂

雨（組曲「雨」より）

八木 重吉 作詞  
多田 武彦 作曲

♪ エンディング 夜のうた



と、強烈なシンクレーションであるが、これららの奇妙な交錯は万人の耳をひきつけずにはおこななかった。

黒人たちの歌は、やがてブルースとなりジャズとなったが、その根底を流れているものは「Soul」であろう。このことをぬきにしてジャズは語れない。いま私たちにとって黒人霊歌とふれあう部分があるとすれば「Soul-Music」としての黒人霊歌にちがいない。

(第6回定期演奏会プログラムの曲目解説を再録しました。)

#### ・ Deep River 『深い河』

「深い河」とはヨルダン河のことですが、その深さゆえに「越えられぬ線」を意味します。南部の農場でつらい日々を送る黒人たちにとっての「深い河」はアメリカを北部と南部にわたる大河ミズーリやオハイオであり、故郷アフリカとの間にある大西洋であり、はたまた生と死とのほざまっていたのかも知れません。

#### ・ Dry Bones 『ドライ・ボーンズ』

旧約聖書エゼキエル書にある有名な物語。予言者エゼキエルが見たという「枯れた骨の復活の奇跡」を歌ったもの。親しみやすいシンパルな旋律、2小節ごとにキーが変わる面白さが魅力的です。

#### ・ Swing Low Sweet Chariot

『ゆれるよ幌馬車』

これも旧約聖書の物語による霊歌です。予言者エリヤが、天国からやて来た焔の馬車に乗ってヨルダン河を渡り天国へ行ったという物語ですが、故郷であるアフリカへ帰ることが絶望的であった黒人たちにとって、やさしく揺れるチャリオット(二輪の戦車)に乗って、天使に見守られながら天国に召されることを願う心の表れでもありました。

#### ・ Nobody Knows De Trouble I See

『誰も知らない私の悩み』

私の悩みは誰も知らない。だが主よ、あなたは知っておいでだ。おお、主に栄光あれ。時には心浮きたち、時には心沈む。おお、主よ、そうなのです……。主イエスに苦しみを訴えるしみじみとした曲です。

#### ・ Battle Hymn Of The Republic

『リパブリック讃歌』

「おたまじゃくしは蛙の子」「伝兵衛さんの赤ちゃん」から「友だち讃歌」にいたるまで、いろいろな歌詞で歌われるこの歌、

もとは南北戦争中に北軍の兵士たちが愛唱した「ジョン・ブラウンの遺体」です。熱烈な奴隷解放論者ジョン・ブラウンの遺体は朽ちても心は常に前進するという歌詞は、後に女流詩人ジュリア・ウォード・ハウの「共和国讃歌」に変えられ、長く歌い継がれています。

## 枯木と太陽の歌

福永陽一郎

前、全日本合唱連盟理事長である作曲家の石井勲(敬称略)の、合唱作品としては代表作であると称してよいのが、男声合唱とピアノの為の「枯木と太陽の歌」——1955年作曲——である。作曲者のミュンヘン留学当時の師であるカール・オルフの強い影響のもとに、その作曲技法の特徴である「持続低音(オスティナート)」が顕著に表れており、その点で、これが留学から帰国した直後の作品であることを証している。1950年代に盛んに活動していた東京男声合唱団というグループがあり、石井勲はドイツから帰国して直ぐ、清水脩の後を継いでその合唱団の常任指揮者になった。そして、この合唱団のために「枯木と太陽の歌」を作曲したのである。ちなみに男声合唱曲の名曲である「月光とビエロ」も、清水脩がこの合唱団のために作曲したものである。石井勲の作風は決して前衛に走ることもなく、しかし保守的というものでもなく、まったく独創的なもので、日本人ならではのらかな風格と、楽天的とも言える明るさにおいて、比較を許されない境地にあり、伝統的な音楽語法によりながらも、常に新鮮な感覚を盛り込むことに成功している。ロマンティックに陥ることなく、逆に骨太のマンチantalに陥ることなく、逆に骨太の音楽を書きながらもテリカシイをそなえ、決して多作家でないにもかかわらず、日本の作曲界に於いて大きな存在を認められている。

「枯木と太陽の歌」は、全部で4章からなる組曲で作詞者はさる音楽雑誌のヴェラン編集者であり、石井勲の親友でもある。中田浩一郎はペンネーム。作曲・発表直後、音楽の友社から出版された第1版は、現行の楽譜とかなりの異同がある。またドイツのショット社から出版されているドイツ語・英語版は、歌詞のシラブルによる変動の他に、音符上の異同も散見される。私(福永)が指揮する場合、1970年の7版を基本と

して、わずかに初版の書式を採用し、歌唱する歌詞は巻末の「たて書き」に従っている。

この曲はまた、音楽と詩とが平行して創り出されたことでも有名である。詩人と作曲家の共同作業は決して珍しくないが、この作品は、音楽のほうに先にできて、それに詩がつけられるという過程をとることが多かったということである。そうして詩と合致しない場合、さらに音楽の練り直しがさされていった。このような同時産出というケースは珍しいのではないか。

「枯木と太陽の歌」は、私のきわめて重厚なレパートリーのひとつである。1957年、作曲家自身の指揮による初演、そして楽譜の出版の直後、私はこの作品の第2番目の指揮者として東京コラリアーズによって演奏した。それ以来、公演回数も多く、市販されたレコードのうち3枚までは私の指揮である。私のこの曲の演奏歴の中でのハイライトは、初演の団体であった東京男声合唱団と東京コラリアーズの合同で、指揮・石井勲、ピアノ・福永陽一郎というコンビでNHKのために録音したときであろう。小田原男声合唱団にとっても、「月光とビエロ」に続く演奏回数の多い曲目となっている。

(第4回および第13回定期演奏会プログラムの曲目解説を再録しました。)

## ことばあそびうた II

「朝のかたち—谷川俊太郎詩集II」のあとがきで、作者は次のように書いている。

十代の終わりがころ、私は友人に誘われて、全くうかうかと詩のようなものを書き始めた。とりたてて詩が好きだったわけでもなく、まして詩を一生の仕事とするなど考えもしなかった。そんな私にもう四十年近く詩にかかわってきて、今まで詩を書くことを、天職のように考えている。自分でも気がかぬうちに私は詩に、つまり言葉にとらわれてしまった。そのおそろしさを楽しさを存分に味わえたことを、現在の私は幸運だと思っている。(中略)

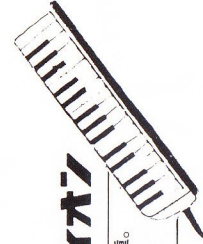
後世をまつという気持ちは私にはなく、私にもつばら同時代に受けたい一心で書いてきた。それも詩人仲間だけでなく、赤んぼうから年よりまで、日本語を母語とするすべてにおもしろがってもらえるような詩を書こうとしてき

# はじめて出逢う・音楽のよろこび

おん  
の  
こ  
び

## ススキメロディオン

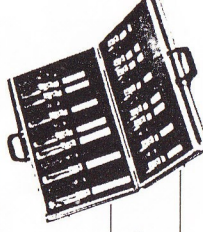
ソプラノからバスまで13機種。  
演奏性・用途に合わせた  
メロディオン。



おん  
の  
こ  
び  
の  
主  
役

## トーン・チャイム

創造するよろこびが、音楽のよろこび。  
トーン・チャイム。



株式会社 鈴木楽器製作所

〒430 浜松市須賀2-25-11 TEL.<0534>61-2325(代)

鈴木楽器販売株式会社

神奈川(営)：横浜市緑区すき野2-6-6 TEL.045-901-2160

## 「雨」について

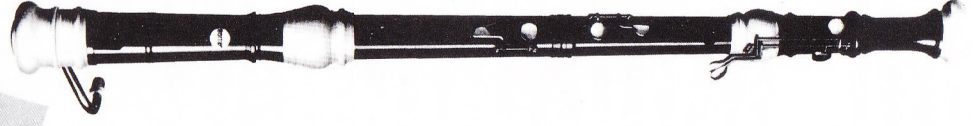
た。私にあるものは、ひどく性急な野心の如きものだろうか。だが、その野心を支えたのは私自身ではない。私をはるかに超えた日本語の深さ、豊かさなのだ。(下略) 角川文庫版による。

「私をはるかに超えた」深さ、豊かさを持ち、新鮮なスリルに満ちている日本語を駆使して、谷川俊太郎(以下敬称略)はさまざまなジャンルの詩を作ってきた。その多彩さは、まさしく北川透のいう「怪人百面相」なのである。「マザー・グースのうた」の翻訳や『ことばあそびうた』、『わらべうた』など、まだ文字を知らない子ども、あるいは文字を習いはじめたばかりの子どもでも親しむことのできる世界に始まり、『誰も知らない』、『みみをすます』、『スーパーマン その他大勢』などの少年詩の世界を経て、『うつつく青年』『空に小鳥がいなくなった日』『手紙』など、恋を知り、深く心の傷を負う世代の共感を得る詩のかずかず、そしてさらに深く、新しい現代詩の試みへと続いて行く。

しゃれ、地口、語呂合わせ、回文、早口言葉、数え歌など、日本語のことは遊びは、漢字、かな、はてはアルファベットまでとり入り、日常の社会生活に深く浸透している。何気なく聞き過ぎてしまう会話の中に発見されるユーモアや新鮮な驚き、言葉の織りなす遊びの幅広さ、詩人の鋭い感性によって拾い上げられたこれらの詩は、作曲家にとっても興味をそそる題材であった。『ことばあそびうた』は、新実徳英自身〈女性合唱のためのことばあそびうた〉があり、三善晃の〈風のとおりみち一子どものための合唱曲集〉の中にも、「かぞえうた」、「うととことこ」、「かっぱ」、「なんのき」〈ことこ〉が採り上げられている。

「うつつく青年」、「死んだ男の残したものは」、「旅」、「定義」などに比較すれば、「ことばあそびうた」は詩としての結晶度、凝縮度は低いかも知れない。しかし、豊かな感性のもたらす遊びが男声合唱の音を通してどのよう表現されているか、お聴きいただいたのも一興と思われる。

from クライネ  
to バス・アウロス。



シマフオーネー No. 801S

シマフオーネー No. 533

アウロスが誇る超精密技術の結晶。  
格調高いVラインのデザイン。

奏者に伝える絶妙のプロイソソング。  
世界一洗練プレーヤー絶賛の名器。

ソプラノ・アルト・テナーを備へ  
新考案・指かけ付!

さらさら楽風・S・M・L・XL・5号・6号の別注  
別売価格 ソプラノ100円・アルト200円

トヤマ楽器製造株式会社

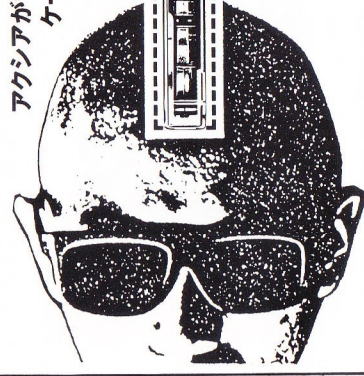
東京本社/〒114 東京都板橋区大塚町41

TEL 03-960-6301(代)

大阪営業所/〒541 大阪市中央区北久宝寺町12-1-7

本町和光ビル802号 TEL 06-264-7191(代)

アクシアがつからなかつたら  
ケースはいつまでも  
厚いままだった。



カドが丸くて、

すき間がなくて、



いい音ぎっしり。  
ケースはうすい。

カセットを  
変えてゆくのは  
AXIAです。



PS-Slim AXIA

# 団員紹介

## ▼T1

氏名	居住地	職業
吉田晃	小田原	自営業
斉藤 恵	厚木	教員
福嶋 修	小田原	会社員
日置 達	南足柄	会社員
加藤 男	中郡大磯	教員
西山 兀	中郡二宮	会社員
中島 弘	南足柄	短大講師
北岡 一	厚木	会社員
長谷川 幸雄	小田原	公務員

## ▼T2

氏名	居住地	職業
青野 純	小田原	会社員
福井 史	中郡二宮	教員
藤本 慎	秦野	会社員
北島 道	平塚	会社員
鈴木 幸	足柄上郡山北	教員
鈴木 昌	小田原	教員
佐藤 精	中郡二宮	会社員
青野 幸	秦野	教員
杉本 健	南足柄	公務員
高橋 諭	平塚	公務員
平山 純	南足柄	教員
佐々木	南足柄	会社員

## ▼B1

氏名	居住地	職業
足利 裕	足柄下郡湯河原	教員
相木 秀	小田原	教員
松下 興	小田原	自営業
松本 毅	小田原	教員
氏家 夫	足柄上郡山北	教員
中慶 明	厚木	医師
廣島 志	茅ヶ崎	会社員
伊田 邦	秦野	教員
小林 邦	足柄下郡湯河原	会社員
佐伯 一	小田原	会社員
佐治 元	小田原	会社員

## ▼B2

氏名	居住地	職業
井上 忠	小田原	自営業
坂口 彦	小田原	会社員
辺 男	小田原	教員
沢 之	小田原	会社員
下 孝	小田原	会社員
日 部	平塚	医師
中山 博	中郡二宮	会社員
江藤 凱	厚木	会社員
高橋 秀	小田原	会社員
矢島 隆	小田原	公務員
赤川 軍	厚木	教員
川 一	厚木	会社員

## ♪ 第19回定期演奏会特別出演者 ♪

T1 加藤政信・佐野 恵 T2 福井 隆 B1 江川卓男・鉦鹿明弘 B2 土居依男・阿部年男

## ♪ 第19回定期演奏会スタッフ ♪

実行委員長 斉藤恵司 事務局 井上忠彦 会計 高橋 潔 演出 福島 修 招待状 佐々木 純 プログラム 斉藤恵司・鈴木幸三 技術 松本和夫 台宿 小林隆一 打ち上げ 日置達男

## ♪ 小田原男声合唱団スタッフ ♪

指揮者 渡辺 己 副指揮者 松本和夫 団長 柏木秀茂 副団長・技術部長 福島 修  
副団長・財政部長 佐藤精孝 副団長・団員部長 小林隆一 事務局長 井上忠彦 渉外部長 下村興毅  
事業部長 斉藤恵司 情報部長 日置達男 備品部長 高橋 潔 監査 足利裕之・坂口宗夫  
休団者 T1 大塚正夫 加藤和義 T2 石橋泰三 井筒 稔 小野 豊 馬場和男  
B1 小沢 一 二宮治二 奥津光隆 古沢 憲 山崎幸興 田中吉春 国吉 厚 B2 秋野三郎 福野 雅典 桑原敏雄 湯川裕光



感じあふぬたいせつに  
feelin' YAMAHA

Yamaha makes New Tradition

カスタムトランペット

独自の組成のイエローブラスを開発し、  
より重く厚いパワフルな音色を実現。  
敏捷で柔軟な表現力を探究。

株式会社 宮地商会

東京都千代田区神田小川町1丁目4番地  
電話 (255) 2751番(代)

## ありし日の福永先生をしのんで



1972年 第1回合唱 仙石原小学校

### ● 第1回定期演奏会にあたって

私が、つねづね残念に思っておりましてのは、日本の合唱運動の中心が学生、つまり二十代前半の青年たちの間にあつて、その熱心な若者たちも、いつか社会の中に溶解してしまつて、決して一般の平常生活の中での音楽活動の原動力になり得ないという一事についてであります。はからずも、今回、小田原のかたがたと話合つておりますうち、歌を忘れたカナリアかとも見えなかつたので、合唱気狂いたちが、決してその情熱を忘却の彼方に置いてきてしまったのではないことを知つて、非常に嬉しく思つたものです。

## 福永先生と

## 小田原男声

### ● 小田原と私

小田原男声合唱団での私の存在の仕方が、私の現在の音楽生活の“原点”となつてい——と言つと、ほかでの活動の量を知つていゝる人々は、“一部”であつても“原点”といふのは可笑しいと思ふかも知れない。だが、小田原という“中央に近くて遠い場所”で、本物の音楽文化の興隆に力を尽すことは、日本という“西欧文化に近くて遠い国”の文化を本物にすることと同じ意味を持つのである。私は、小田原というひとつの地域で実行し、重ねてゆく仕事の成果が、そのまま全日本的活動に連関してゆくと、小田原を典型としてその拡大が日本のユートピア化になると信じてゐる。そして、小田原で私の周囲に形成されてゐる人間関係の素晴らしさは、人類世界の将来に対しての一種の絶望感を大きく緩和してくれる。小田原で、しばしば私は、生きるということの幸福をかみ締める。

### ● ひととせを過ぎて

第二回の演奏会をむかえて、つまり、誕生した合唱団の披露としてではなく、存続している合唱団の価値を問ふべき日を前にして、私は心がはずんでおります。

小田原男声合唱団の指揮を引受けました時、これは何かできる、と感じてはおりましたが、正直のところ、これほど素晴らしい人々の集合とは思つておりませんでした。親しくなり、仲間づきあいをし、本当にこれは、すごい合唱団だと、構成員の一人一人について、深く感じるどころか、指揮者にとつて嬉しいことは自分の合唱団のメンバーの自慢ができることほど、指揮者にとつて嬉しいことではありません。

### ● 3という数字

私は経験上、合唱団の3年目はえてして危機であるということを考えてはゆかなかつたのです。1年目も2年目もうまくいった、うまくいきすぎた小田原男声でしたから、余計に心配でした。まだ全面的な管えが出たわけではありませんが、どうやらその心配も杞憂に終りそうな様子です。小田原男声の団員諸氏の人間のたしなみは、これは稀有のものだと、常々、感じています。ホフマンシミュタールは「薪が燃えるのは、燃える材質を舍んでいるからだ——」と言いましたが、小さな火種にしか過ぎない私にしてみれば、この“薪”は実に素晴らしい木々です。

### ● 合唱のよろこびを

合唱団の運営はどこへいつても決してラクなことではあり得ませんが、苦しいとき、えてして口に出るのには『楽しいコーラスをやらう』ということですよ。この合唱団のモットーは“楽しいコーラス”です、とも言います。

小田原男声も、スタートの頃は楽しいと思ふことが多かったのです。年月が経過して、誰が一人でも“疲れ”をおぼえるようではいけない、と、常に“よろこび”のある合唱団でありたいと念願する今日この頃です。

## ● FIFTH ANNIVERSARY

私の合唱指揮生活30年の六分の一が、小田原男声と共にしてきた年月になるのか……。私の感覚では合唱生活は長く古く、小田原男声とのつきあいは短く新鮮である。

真の意味で、生活の中に合唱があるという理想像としての社会人合唱団の確立——おそらく日本で最初——を目標として、手をたずさえてやってきた5年間。とはいっても、仕事は緒に就いたばかり。今日ただいま、まだ試行錯誤のまっ最中のような毎日である。小田原男声と音楽をしていると、つい楽天的になりすぎてる自分に、いましめなければと反省はしてみるものの、心が愉快さにはずむのを、とめようがない。

## ● 第7回定期演奏会に当って

「小田原男声・日本の男声合唱曲をうたう」という演奏会をやり、一応の成果をおさめたと感じたとき、ようやく小田原男声合唱団も、「レパートリー」というものを持っていると言えるようになったのかなあ、と話し合ったものです。そのレパートリーというのが「月光とピエロ」と「枯木と太陽の歌」と「雨」だったので、これだけでも、本来の意味でレパートリーと言えるところしたら、団体として一人前だと自認してもよいのではないかと、などとも思いました。すくなくとも、合唱団として見えてきた、と言ってもいいような安定感を実感したのです。

## ● 9年目をむかえて

いつも、団のかたがたが話合うことですが、もう「小田原男声」も9年目になって、あんまり疾いので、どうも実感がありません。でも、9年の長さが実感として胸にひびかないというのは、やはり、それだけ、毎週毎週、毎月毎月、毎年毎年、知らずに過してしまっただけ、何はともあれ充実した日々だったのかもしれないと思います。私自身も50の半分を過ぎようとしています。でも、思い出すのは、年月の長さでなく、あの歌の歌、そしてその声がひびいた一瞬一瞬です。

## ● 第10回定演にあたって

私にとっても、そして多くの、団と共に歩んだ人々にとっても、この10年間に経てきた道程は、必ずや起伏の大きいものであったに違いない。小田原男声は、それだけのそれぞれの人間の集合体だったし、そのやってきたことは、ひとつの合唱団として、決して凡々たる年月ではなかったのだ。そのあげくの10周年である。私は、いまこそ小田原男声合唱団では、何があってもゆるがない合唱団が確立されたと考え、10周年定期演奏会。小田原男声合唱団は、本日をもって再び出発する。旅立ちをする。そのように決意している私である。

## ● 第5回定期演奏会を終って

いままでのステージは、とかく、背のびが過ぎ、前のめりに傾き、それでも前進することを強制して拍車をかけた指揮者としての私自身が嫌悪におちいることが多かったのに、今回は、充足感をもって演奏会を終了することができ、小田原男声も、ようやく「合唱団」になったかと、挑発的な立場の共同者として、安堵の胸をなで下ろす気持であった。今年、合唱団と呼ぶにふさわしい姿をあらわした小田原男声を眼前にして、私が、どれほど大きい充足感を持ったか、私とこの合唱団との「関係」を知る方々には、わかっていただけでは足りないだろうが。

## ● 今年は……

この足かけ八年は、なかなか充実した、中味の濃いすごしかたをしているのです。あの演奏会この曲目。昨年の定演のあとにも、「メサイア」「マラーの千人交響曲」「創作オペラ」と行事に行事が続き、まったく寧日無しという具合でしたから、キツイと言いつつ、社会人の合唱団としては、これほどキツイ内容をこなすところは、多くはないはずですが。

## ● 感想

10年目を過ぎたということで、今回から、過去の主要レパートリーの“くり返し”を、毎回1曲以上、プログラムにみこんでゆくことにした。小田原男声合唱団の独自の「得意のレパートリー」を確保してゆくという目標があつたことだが、それが、しばらく練習に参加していなかったメンバーの復帰のキッカケになるという副産物を生んだのは思わぬ収穫であった。こうして、やっぱり、世の合唱好きの集団は、絶えることなく続いてゆくのだと、目の先が明るくなる思いであつた。

## どうぞ 安らかに……

「声の悪い奴は指揮がうまい」は陽ちゃんの特論。声の良悪は別にして、陽ちゃんとは妥協のない厳しい音楽を機微豊かに明解に指揮する。「アマチュアには（予習する）時間が無い。そこを何とかするのがプロだ」。忙しい仕事をもつ男声合唱団員にとつて、麻薬とも云えるこの理解ある心と、その指揮に支えられ小田原男声育った。陽ちゃんは我々にとつて、偉大な指揮者、暖かい指揮者、嬉しい仲間だった。陽ちゃんの書いた「小田原への思い」をこのように並べ読むと、失ったものの大きさを改めて感じる。

「病気がすぐに治らないのは仕方ない。すぐに治せとは云わない。貴方は医者ならステージに立てる状態にして！」練習後の一杯の席で医者への言葉を楽しく再現実らせていた。何たる論理、無茶。だがこの中に、ステージを、歌い手を、聴き手を、音楽を大切にする陽ちゃんの情熱が滲みでている。有難うございました。安らかにお眠り下さい。

## ◆1989～1991 小田男カレンダー（予定含む）

年月日	曜	演奏会名等	会場	指揮
89. 7. 16	日	第18回定期演奏会	小田原市民会館	畑中良輔・渡辺決己
89. 10. 8	日	第24回小田原市民合唱祭	小田原市民会館	渡辺決己
89. 11. 19	日	和音会（秋のコンサート）	湯河原中学校体育館	松尾葉子
89. 12. 9	土	クリスマスコンサート	小田原市民会館	渡辺決己・佐々木修
89. 12. 26	火	城と緑と海の西湘音楽フェスティバル	小田原市民会館	手塚幸紀
90. 3. 29	木	三木緑の世界（有志参加）	サントリノーホール	小林研一郎
90. 5. 13	日	KANSAI FASHION SPECTACLE	スポーツ広場特設会場	
90. 6. 16	土	定期演奏会強化練習第1日	松田中学校	
90. 6. 17	日	定期演奏会強化練習第2日	松田町民文化センター	
90. 7. 14	土	第19回定期演奏会	小田原市民会館	渡辺決己・松本和夫・柏木秀茂
90. 10. 7	日	第9シンフォニーの夕べ 小田原市制50周年記念事業	小田原市民会館	
90. 11. 18	日	第10回JAMCA小田原	小田原市民会館	畑中良輔・渡辺決己
91. 7. 13	土	第20回定期演奏会	小田原市民会館	畑中良輔・渡辺決己

## ◆1989～1990 演奏曲目

No	作曲者	曲名	No	作曲者	曲名
1	トステイ	L'ultima Canzone	16	滝 廉太郎	荒城の月
2		Sogno	17	中田 喜直	雪の降る町を
3		La Serenata	18	小学唱歌	冬の夜
4		Marechiaro	19	滝 廉太郎	箱根八里
5		Ideale	20	サンサーズ	白鳥
6		Addio	21	日本民謡	そららん節
7	シューベルト	Got Meine Zurersicht	22		大島節
8		Ständchen	23		最上川舟歌
9		Nachtgesang im Walde	24	ビゼー	「カルメン」4幕行進曲と合唱
10	多田 武彦	草野小平の詩から「石家荘・天・金魚・雨・さくら散る」	25	ボロデイン	「イーゴリ公」第2幕ダンスタン人の踊り
11	中田 章	早春譜	26	マスカーニ	「カバレリア・ルスティカーナ」間奏曲
12	小学唱歌	牧場の朝	27	ヴェルディ	「ナブッコ」第3幕金色の翼に乗って
13	小山作之助	夏は来ぬ	28	ヴェルディ	「アイーダ」第2幕凱旋の合唱
14	中田 喜直	夏の思い出	29	三木 稔	レクイエム
15	山田 耕彦	とんぼ			

## —— 小田原とさめき夢まつり参加 JAMCA日本男声合唱協会第10回演奏会 ——

■1990年11月18日(日)午後1時30分開演 ■小田原市民会館大ホール

■出演団体

弘前メンネルコール・東京リーダーターフェル1925・東海メールクワイアー・小田原男声合唱団

■合同指揮/畑 中 良 輔

# アポロピア

東洋ピアノ製造株式会社



## 井上楽器

小田原お堀端通り

TEL.24-0515